

幼児に適した座席ベルトのバックル等の構造に関する検討について

○ 背景

幼児専用車の乗員保護対策については、平成23、24年度の車両安全対策検討会及びその傘下に設置したワーキンググループにおいて、幼児専用車への座席ベルトの装備の必要性を含め検討し、平成25年3月に「幼児専用車の車両安全性向上のためのガイドライン」をとりまとめ公表した。

同ガイドラインでは、幼児専用車のシートバック後面への緩衝材の追加及びシートバック高さの変更が望ましいとするほか、座席ベルトについては、使用実態に十分配慮しつつ、幼児に適した座席ベルトを開発し、適切な座席ベルトの装備を望む使用者が、新車購入時に選択できるようになることを目指すこととされていた。

○ 平成25年ガイドラインで今後の検討が必要とされた座席ベルトに係る課題

- (1) 幼児専用車を利用する幼児（主に3～6歳）の体格を踏まえた座席ベルトの設定
 - (2) 座席ベルトの誤使用による傷害の発生
 - (3) 緊急時の脱出も踏まえた幼児自らが容易に座席ベルトを外すことが可能な構造
- ※使用実態に十分配慮しつつ、諸課題を解決した座席ベルトを開発、適切な座席ベルトの装備を望む使用者が新車購入時に選択可能となることを目指す

○ 今年度の検討

平成25年以降のベルト構造に関する研究・開発状況や検討経緯を踏まえ、ワーキンググループを再開し、平成25年ガイドラインで示された課題の幼児に適した座席ベルトのバックル等の構造について解決を目指し検討。

<ワーキンググループの開催>

令和5年							令和6年		
6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	○ 第1回 ワーキング (7/31)			○ 第2回 ワーキング (10/31)		○ 第3回 ワーキング (12/20)			● 車両安全対策 検討会 (3/18)

<ワーキンググループの構成>

- ・学識経験者（座長：水野幸治 名古屋大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻 教授）
- ・（一社）日本自動車工業会
- ・（一社）日本自動車車体工業会
- ・（一社）日本自動車部品工業会
- ・独立行政法人交通安全環境研究所
- ・文部科学省（オブザーバー）
- ・こども家庭庁（オブザーバー）
- ・全日本私立幼稚園連合会（オブザーバー）
- ・日本保育協会（オブザーバー）
- ・全国認定こども園協会（オブザーバー）
- ・国土交通省（事務局）